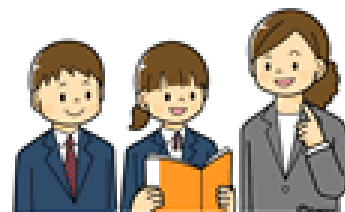


4月19日に本校3年生103名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について結果がまとまりました。本調査は、国語と数学の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・数学）

今年度、国語A（主として知識）・国語B（主として活用）、数学A（主として知識）・数学B（主として活用）が実施されました。2教科A・Bともに全国平均をやや下回る結果となりましたが、領域や設問によっては全国平均を上回るものも見られます。国語Aでは「話すこと・聞くこと」と「書くこと」、数学Aでは「図形」と「資料の活用」で全国平均を上回る正答率を示しています。反対に苦手とする領域は国語Aの「読むこと」、数学Aの「関数」となっています。



また、大きな特徴としては無回答率が全国平均に比べて圧倒的に低く、あきらめずに粘り強く問題に取り組む姿勢が身についていることが挙げられます。

今後も引き続き、基礎・基本的な知識の定着をはかりながら、グループ学習などを通じて情報・資料をよく読み、自分の考えや意見をまとめ、発表できる能力を付けていきたいと考えます。

国語科より

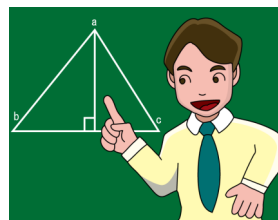
読書に親しもう！
グループ学習に取り組もう！



全体として全国平均正答率を若干下回るものの、国語A（知識）は1.7ポイント差、国語B（活用）は2.0ポイント差と全国平均に迫っています。特に、国語Bは昨年度と比較し0.9ポイントの改善傾向にあり、**知識を活用する力の向上**が見られます。昨年の課題であった「問題解決型のグループ学習」を授業に積極的に取り入れたひとつの成果が見られました。

また、話すこと・聞くこと、書くことの領域において、全国平均正答率を上回る結果が出ており、実践活用能力や、自分の考えを表現する力の向上が見られます。ただし一方で、読む力の習得に課題があり、今後は普段なかなか手のつけにくい「説明的文章」に積極的に触れていくよう指導を進めていきたいと思います。

数学科より



学びを深める。
発信する。
話し合い、広げる。

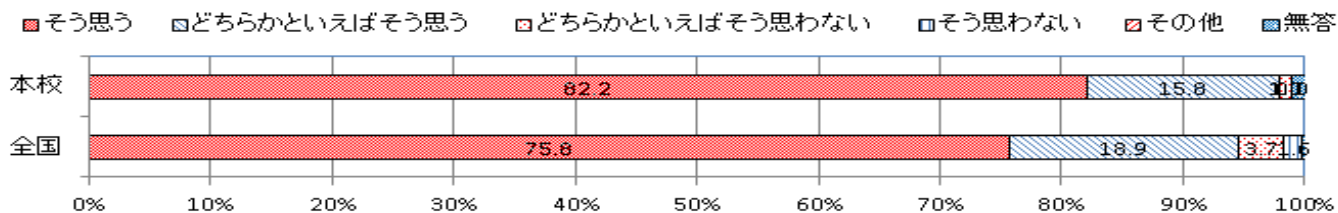
全体として全国平均正答率を若干下回っていますが、数学A（知識）では、図形・資料の活用領域（対称移動・立方体の見取り図・真の値の範囲等）で全国平均を上回りました。一方で、関数領域（変化の割合・増加率等）を苦手としています。数学B（活用）では資料から傾向をとらえ説明することにすぐれています。

質問紙では、「数学が好き」「わからないとき諦めずにいい方法を考える」「数学ができるようになりたい」「生徒間で話し合い、考えを深めたり広げたりする」の回答が比較的多い一方、「数学の授業内容がよくわかる」「公式などを使うとき、その今根拠を理解するようにしている」は肯定的な回答が全国平均を下回っています。

また、学習した内容を応用・発展することを苦手とする傾向も見られ、基礎・基本を大切にしつつ、活用する力を育てたいと思います。

生徒質問紙調査から ①

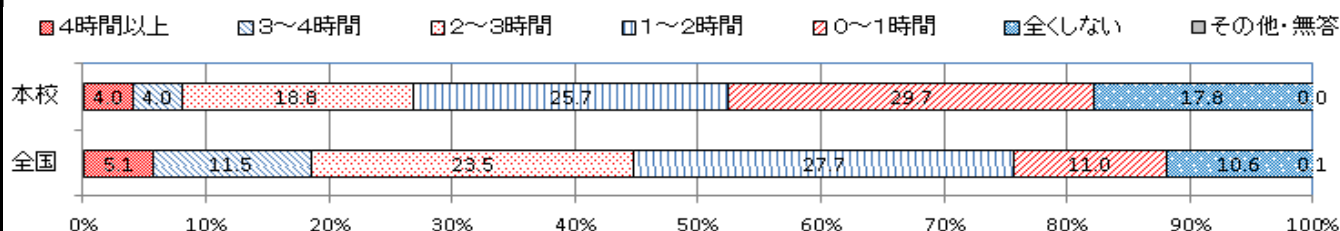
Q 学校で友達に会うのは楽しいと思いますか



★昨年同様に、「学校に行くのは楽しいですか」という問いにはほぼ全国平均の回答です。上記の問い以外にも「あなたの学級では、学級会の時間などに友達同士で話し合って学級の決まりなどを決めていますか」「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」の問いに対して、肯定的な意見が全国平均より約10ポイント高くなっています。

生徒質問紙調査から ②

Q 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）



★平日の家庭学習時間ほぼ全国平均と同じとなりましたが、テレビやビデオ・DVDの視聴、テレビゲーム、携帯電話・スマートフォン(通話・メール・インターネット等)に費やしている時間が多くなっています。特に、平日にスマホ等でのメール・インターネットに費やす時間が4時間以上の生徒が全国平均の2.5倍の21.8%と突出して多くなっています。また、家族との会話時間や、地域行事への参加についても全国平均を下回っています。

全体を通した本校の成果と課題

本校では、基礎的・基本的な学力の大幅な向上と豊かな感性・情感・知恵を育むことを目標として、日々の授業を大切にすることを基本に、週末課題・確認テスト、朝読書、定期テスト前学習会・夏季休暇中学習会・土曜学習会の実施、校下2小学校との学習状況の情報の共有や、交流などをすすめています。その結果、2教科とも全国平均は下回っているものの、国語A「話すこと・聞くこと」「書くこと」や数学A「図形」「資料の活用」など学習領域・設問によっては上回っているものも見られます。また、学習確認プログラムでは、数学・理科など正答率が全市平均を上回っている教科もあります。

生徒質問紙調査では、「学校で友達と会うのは楽しい」「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」という問いに肯定的な回答をした生徒が昨年同様、全国平均に比べ10ポイント以上高くなっているおり、学校生活の充実が学力向上につながると考えています。また、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったとがある」「難しいことでも失敗を恐れず挑戦している」「自分にはよいところがある」という問いに『当てはまる』と答えた生徒が昨年に比べ10～15ポイント増えており自己有用感・肯定感がそだちつつあると考えられます。一方、携帯・スマホなどの使用時間が長いことや家庭学習の時間が短いことは、今後引き続き、家庭とともに改善にむけてとりくみたい課題です。

保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばし、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果を見ると、学習確認プログラムの結果も含め、これまでの調査と比べて、学力は徐々に伸びてきており、生徒質問紙調査の結果も改善の方向にあり、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや指導・支援の成果が表れています。今後も引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。

